

## 第 1 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 11 年 12 月 9 日 19:00～21:00  
市民活動サポートセンター  
フレキシブルスペース

### 1 審議事項

#### (1) 委員長及び委員長職務代理の選出

- ・田口委員を委員長、水谷委員を委員長職務代理に選任した。

#### (2) 委員会の公開について（資料 1）

- ・事務局から提案。委員了承。

#### (3) 市民活動サポートセンターのあり方について

- ・当面は現在行なっている形を維持し、利用状況等を見ながら、必要に応じて今後の運営委員会で対応を検討することとした。

### 2 その他

- ・今後の運営委員会の日程は 1 月 20 日（木）、3 月 9 日（木）とする。
- ・サポートセンター運営の委託先となる NPO の立ち上げまたは公募については、次回以降検討する。

### [意見概要]

#### (田口委員)

- ・利用者の声だけでなく、スタッフの意見も運営委員会に持ち込んでほしい。

#### (新井委員)

- ・準備会でスタッフ採用の条件として 6 つの項目を設定した。それにしたがって、何曜日は何の相談に対応できると明記することになっていたはずだが、スタッフがそれらの項目を認識していない。

#### (事務局)

- ・スタッフ募集チラシに掲載したのである程度認識していると思うが、再度説明し、だれがどのような相談に対応できるかわかりやすい表示を検討する。

#### (田口委員)

- ・運営をしつつ相談に対応するのはかなりの負担である。他の機関や運営委員など、特定分野の対応ができる人や団体を紹介することで対応してはどうか。

#### (根本委員)

- ・開館時間の検討材料とするため、午後 9 時以降の利用の統計をとる必要がある。

#### (山下委員)

- ・入口外に施設紹介があれば、初めて来た人も入りやすい。

**(事務局)**

- ・手作りのPRビデオを、外から見えるような位置で放映したいと考えている。

**(今城委員)**

- ・オフィスの機能ということで活動自体は不可としているが、空いていれば文化活動でも使わせて良いのではないか。

**(飯塚委員)**

- ・今後のPRで利用者は増えていくと想定される。その時点で断わるのは難しいので、文化活動の場としての利用は不可とした方が良い。今のやり方で様子を見てはどうか。

**(事務局)**

- ・外国人に日本語を教えるボランティア団体から小人数の日本語クラスの場として利用したいと希望があったが、活動そのものなので断わった。

**(新井委員)**

- ・ボランティアの日本語講座は、囲碁や編み物などの趣味的な活動とは違うと思う。

**(庄司委員)**

- ・日本語会話サロンは国際交流協会のボランティアによって行われている。市の施設は使用許可書の提出や1ヶ月に2回までとかいろいろ規制があり使いづらい面がある。

**(鈴木委員)**

- ・囲碁と日本語教室を明確に区別することは難しい。サポートセンターはオフィス機能として利用してほしい。

**(田口委員)**

- ・日本語を教えるボランティアグループのように、これから活動を始めようとする団体を支えていく必要があり、これは今後の課題である。

- ・施設がきれい過ぎると人は入りにくい。壁やガラス面にPRするものをはってはどうか。

**(新井委員)**

- ・絵などは広く寄贈を呼びかけても良い。

**(江口委員)**

- ・文化協会の会員なので良ければ協会の会員に作品展示について呼びかけても良い。

**(飯塚委員)**

- ・PRは口コミが一番効果がある。利用者にPRを依頼してはどうか。

**(今城委員)**

- ・サポートセンターニュースには展示コーナーの利用予定を加えてほしい。

**(庄司委員)**

- ・「市民が訴えたいこと欄」を設けて、何でもいいから市民が言いたいことを掲載してはどうか。

**(根本委員)**

- ・宣伝を兼ねて利用者の声欄としても良い。

**(安倍委員)**

- ・楽しく読めて、保存しておきたくなるような内容にしたい。

(田口委員)

- ・イベントについて、サポートセンターの機器勉強会は必要に迫られないと参加する気にならない。

(鈴木委員)

- ・イベントについては、運営委員から意見を募集してはどうか。

(事務局)

- ・1週間以内にアイデアのある方は企画調整課へ連絡いただきたい。

(江口委員)

- ・フレキシブルコーナーで予約を受けるとあるが、予約なしでいつでも使えるということがこの特徴であり、会議室的な利用をするならば他の施設を使えば良い。開館1か月の段階で方針を変える決断をするのは早すぎるのではないか。

(事務局)

- ・サポートセンターをより多くの人に知ってもらうPR手段としてしばらくの間、予約を受けるとした。

(田口委員)

- ・全体の利用率があがってくれば、にぎやかになって、フレキシブルコーナーを30人の会議に使うことは難しくなる。

(岩崎委員)

- ・他の施設は9時までだが、ここは10時までなので、周知されてくると他施設の利用がこちらに流れてくるのではないか。

(高山委員)

- ・利用状況をみながら、時間制限を設ける必要があるのではないか。

(根本委員)

- ・月1回までとか、ある程度の制限は必要かと思う。

(田口委員)

- ・当面、この形でやってみて、支障があれば再検討することとしたい。制限は少ない方が良い。

(今城委員)

- ・来年度予算がどのようになっているのか、次回示してほしい。備品等を購入する予算はあるか。

(事務局)

- ・来年度予算は現在要求した段階であるが、新たな備品購入の予算は組んでいない。